

当初予算の基本的方向

平成30年度予算は、第五次総合計画（わがまちプラン）に掲げる「よいまち」の実現に向けて、地方創生事業を推進するため大竹市まち・ひと・しごと創生総合戦略（総合戦略）の基本目標を達成するための事業を盛り込んでいます。

わがまちプランでは、「住みたい、住んでよかったと感じるまち」をテーマに、笑顔や元気があふれる大竹市になるよう、6つの基本目標を定めています。

- 1 大竹を愛する人づくり
- 2 生活基盤が整ったまち
- 3 安全なまち
- 4 安心できるまち
- 5 心にゆとりを感じるまち
- 6 行政・社会の仕組みづくり

- また、総合戦略では、
- ・ 地域経済を活性化し、安定した雇用創出を実現する
 - ・ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
 - ・ 誰もが健康で生きがいをもち、安心して暮らせる地域を実現する
- を基本目標としています。

これらの計画に基づき、一歩ずつ進んでいくことが市民のみなさんが考える「よいまち」の実現につながると考えています。



みんなが気になる 予算の話

私たちの暮らしにとって大切なお金。そのお金をどのように使っていくか、しっかり考えていかなければなりません。

平成30年度の市の予算が3月の市議会で成立しました。誰もが気になる予算の話。皆さんにお伝えします。（3ページ～7ページ）

問い合わせ 企画財政課 ☎92121

収入と支出の
絶妙なバランス感覚が
必要じゃ。

前進が見える予算に

平成30年度当初予算では、長年の懸案事項である「大竹駅周辺整備事業」がいよいよ本格化し、平成35年度までの継続費を設定しました。

また、中長期的な視点で将来予想される財政負担に備え、各種基金への積み立てを行っています。

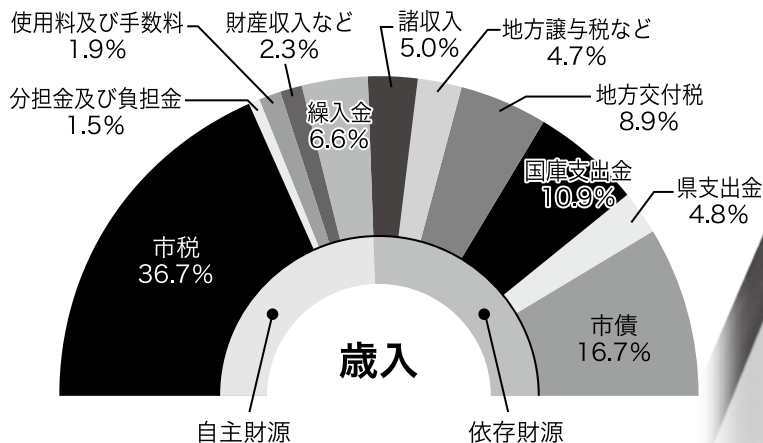
「大竹会館の改築設計」、立戸地区、



東栄地区の「浸水対策事業」、災害発生危険箇所での監視のための防災監視システム等を整備する「防災・保安体制整備事業」をはじめ住民の安全に関わる緊急度の高い事業を行います。

また、本市の魅力を一層高める「晴海臨海公園整備事業」を継続するなど「前進が見える堅実予算」を目指しました。

一般会計予算総額 149億



149億円の内訳をみてみよう。

歳入

項目	内容	平成30年度 ()は29年度	前年度比 (%)
		149億2,461万円 (133億5,761万円)	
自主財源			
市 税	市民税や固定資産税など	54億8,465万円 (55億3,838万円)	▲1.0
分担金および負担金	保育料、養護老人ホーム入所者負担金など	2億1,855万円 (2億1,480万円)	1.7
使用料および手数料	市営住宅使用料、ごみ・し尿処理使用料、各施設の使用料など	2億8,770万円 (2億8,644万円)	0.4
財産収入	土地売却収入、寄附金など	3億4,650万円 (1億8,854万円)	83.8
繰入金	財政調整基金繰入金、水道会計退職手当組合負担金繰入金など	9億8,993万円 (6億8,807万円)	43.9
諸収入	他の収入科目に含まれない収入(貸付金元金収入など)	7億3,727万円 (4億8,053万円)	53.4
依存財源			
地方譲与税など	国や県が徴収した税の一部を一定割合で交付されるお金	6億9,187万円 (6億5,437万円)	5.7
地方交付税	市の財政力などに応じて国から交付されるお金	13億3,128万円 (13億 208万円)	2.2
国庫支出金	特定の目的のために国から交付されるお金	16億2,591万円 (17億4,756万円)	▲7.0
県支出金	特定の目的のために県から交付されるお金	7億1,260万円 (6億9,967万円)	1.8
市 債	大きな事業を行うために国や金融機関から借り入れるお金	24億9,835万円 (15億5,717万円)	60.4

一般会計・特別会計の当初予算の概要

一般会計は、可燃ごみ広域処理事業などによる衛生費の大幅な増加により、前年度当初予算と比べ11.7%の増となっております。

歳出では衛生費や土木費などの増額が目立つなか、公債費は減少しています。

歳入は、可燃ごみ広域処理事業などの財源として市債や、市営住宅御園2・3号棟等解体補償費などの諸収入などが増加し、再編交付金などの国庫支出金が減少しました。

7つの特別会計を合わせた額は、68億7,557万円で、前年度と比べると16.2%の減となりました。

《用語解説》

【一般会計・特別会計】

地方公共団体の行政運営上、基本的な分野を行う会計を「一般会計」といい、特定の収入で特定の事業を行う会計を「特別会計」という。

【歳入・歳出】

地方公共団体が、その仕事を行うために必要な経費を賄うものが収入で、その団体の会計年度における全ての収入を歳入といい、全ての支出を歳出という。

【自主財源・依存財源】

市が自主的に調達するお金かどうかによって歳入を区分したものの。市税や保育料、市営住宅使用料や施設の使用料などが自主財源となる。また、国・県支出金や地方交付税など、国や県から市に入ってくるお金は依存財源となる。市債も依存財源に含まれる。

【性質別歳出】

市の経費をその性質ごとに、義務的経費、投資的経費、そのほかの経費に分類したもの。義務的経費は支出が義務付けられている経費。投資的経費は道路や公共施設の建設などにかかる経費。

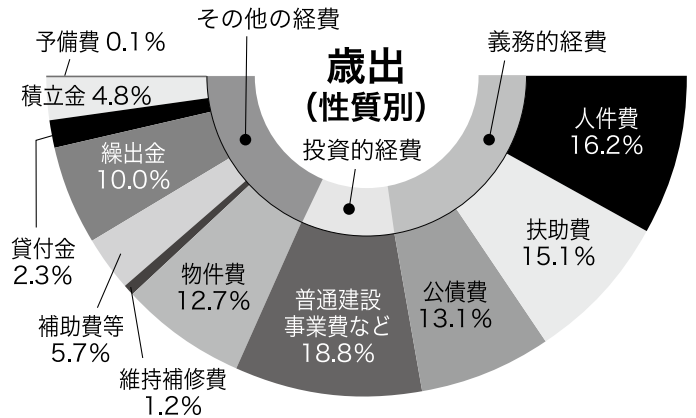
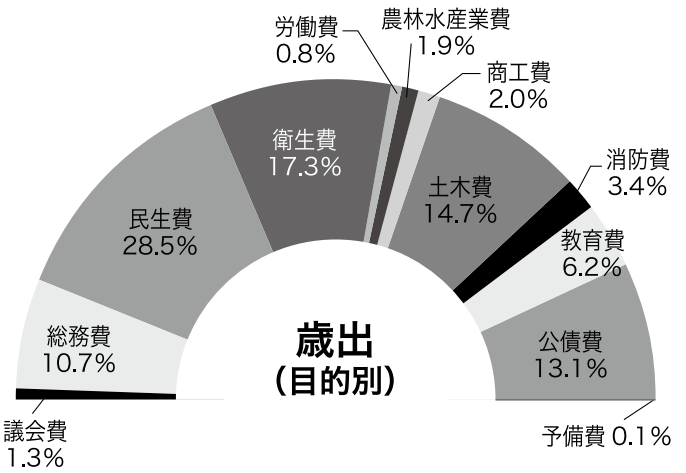
【目的別歳出】

市が行う事業を目的別に分類することができる。行政上の特色などを知ることができる。

歳出(目的別)

項目	内容	平成30年度 ()は29年度	前年度比 (%)
		149億2,461万円 (133億5,761万円)	
議会費	議会の活動にかかる経費	1億8,703万円 (1億8,237万円)	2.6
総務費	市の全般的な管理事務経費、支所、選挙などの経費	15億9,595万円 (14億4,809万円)	10.2
民生費	生活保護や児童・高齢者などの経費	42億4,890万円 (42億4,581万円)	0.1
衛生費	衛生的な生活環境を守るための経費	25億8,515万円 (16億1,631万円)	59.9
労働費	労働者の生活安定や福利増進事業などを行うための経費	1億2,010万円 (1億2,010万円)	0.0
農林水産業費	農林業や水産業の振興などの経費	2億8,456万円 (2億4,579万円)	15.8
商工費	商工業の振興や観光宣伝などの経費	3億1,077万円 (2億6,743万円)	12.6
土木費	道路、河川、港湾、市営住宅、公園などの経費	21億9,259万円 (17億3,778万円)	26.2
消防費	消防・救急業務や災害対策の経費	5億813万円 (4億9,803万円)	2.0
教育費	小・中学校の運営や社会教育などの経費	9億2,511万円 (8億5,477万円)	8.2
災害復旧費	災害復旧工事などの経費	0.5万円 (0.5万円)	0.0
公債費	過去の借入金の返済金	19億5,601万円 (21億2,113万円)	▲7.8
予備費	緊急時のための目的を定めていない予算	2,000万円 (2,000万円)	0.0

※災害復旧費は名目のみ予算計上(1万円未満のため千円単位まで表示)しています。



歳出(性質別)

項目	内容	平成30年度 ()は29年度	前年度比 (%)
		149億2,461万円 (133億5,761万円)	
義務的経費	人件費	24億1,866万円 (23億7,564万円)	1.8
	扶助費	22億4,968万円 (22億7,915万円)	▲1.3
	公債費	19億5,601万円 (21億2,113万円)	▲7.8
投資的経費	普通建設事業費	28億226万円 (14億3,627万円)	95.1
	災害復旧事業費	0.5万円 (0.5万円)	0.0
その他の経費	物件費	19億164万円 (17億9,381万円)	6.0
	維持補修費	1億7,806万円 (1億9,848万円)	▲10.3
	補助費等	8億5,563万円 (8億2,312万円)	4.0
	緑出金	14億8,651万円 (15億2,233万円)	▲2.4
	貸付金	3億4,708万円 (3億5,319万円)	▲1.7
	積立金	7億907万円 (4億3,449万円)	63.2
	予備費	2,000万円 (2,000万円)	0.0



(上) 晴海臨海公園に誕生した大型遊具「ロボボファクトリー」。子どもたちの夢がふくらむまちにしていきたい。(下) 小方学園の二宮金次郎像のように、堅実ではあっても前に進んで行く予算を目指します。

財政担当者に聞く予算のツボ 大竹市の未来を描く予算に

今年度予算は、昨年度と比べると11・7%の増となりました。

増額の理由は、廿日市市と共同の可燃ごみの広域処理施設への負担金が大きくなったことがあげられます。

現在、廿日市市に共同処理施設を建設しており、来年度から稼働する予定です。大竹市単独で建設するより12億円程度費用を抑えることができます。

また、長年の懸案だった新しい大竹駅に生まれ変わるための第一歩を踏み出すよう継続費を設定しました。

平成34年度末の駅改札の開業、東西を結ぶ自由通路と橋上駅化への道筋ができたと思います。

50億円を超える巨大プロジェクト事業です。交付金などの制度を活用するとともに今後も続く支出に備え、基金の蓄えを増やすなど、大竹市の未来を見据えた予算編成となりました。



予算書を見ながら今年度予算について話す企画財政課の建石課長補佐。



1 大竹を愛する人づくり

○中学校教育振興事業(英語力向上事業)(拡充)

66万円

日本英語検定協会が実施する実用英語技能検定を活用し、英語力の向上を目指します。平成29年度は市内中学3年生の3級以上の検定料を全額助成(年1回)しましたが、平成30年度は全ての級に対象を広げます。

2 生活基盤が整ったまち

○可燃ごみ広域処理事業(拡充)

15億6,865万円

廿日市市と締結している基本協定書の合意事項に基づき、平成30年度も引き続き廿日市市内に整備中の次期廃棄物処理施設の建設などに対する負担金を拠出します。今年度中に完成し、平成31年4月から可燃ごみを搬入する予定です。また、本市に市域の可燃ごみを集積する中継施設を2年かけて整備します。平成30年度は紙類等の資源ごみの貯留施設および仮設の可燃ごみ集積場を備えたストックヤードを整備します。

○白石墓地移転事業(拡充)

3,700万円

白石地区にある共同墓地が国による砂防事業区域にあたるため、公共補償により移転します。平成30年度は、移転先となる新しい墓地の建設予定地の用地測量および用地買収等を行います。平成32年度中に完成する予定です。

○観光宣伝等事業(工場夜景写真撮影ツアー事業)(新規)

41万円

工場夜景の観光資源としての可能性を探るため、工場夜景スポットを写真家が同行してバスで巡り、写真撮影を行うツアーを開催します。また、市内の飲食店で本市の特産品であるブランド魚「あたたハマチtoレモン」などの海の幸を堪能してもらうなど、観光と産業振興を結びつける内容を計画しています。

6つの柱に沿った 主な事業を ピックアップ。

わがまちプランに掲げる6つの基本目標。それぞれの 카테고리の中で、今年度の主要事業(新規・拡充)を紹介します。



3 安全なまち

○浸水対策事業(立戸地区)(新規)

3,000万円

大雨時に発生している立戸2丁目地内の市道玖波青木線付近の浸水を緩和するため、雨水排水管を整備します。

○防災・保安体制整備事業(防災監視システム等整備事業)(新規)

668万円

災害危険箇所監視カメラを設置するとともに職員間の通信機能を整備し、より迅速な災害対応体制を構築します。



水面に映る工場の明かりが幻想的。



○医療体制支援事業(救急相談センター運営事業)(新規)
25万円

連携中枢都市圏制度を活用した事業です。広島市が主体となって広島市に設置する「救急相談センター」の事業費の一部を負担します。急な病気やけがをしたときに、電話でアドバイスを受けることができます。緊急度が高い場合は119番へ転送し、救急搬送につなげます。

4 安心できるまち

○不妊治療費助成事業(新規)
450万円

子どもを持ちたいと望む夫婦の妊娠・出産の希望をかなえるため、特定不妊治療の経済的・精神的な負担を軽減し、妊娠・出産しやすい環境づくりに取り組みます。広島県が行う助成制度に上乘せして助成するとともに、所得制限で県の助成が受けられない方も対象とします。

5 心にゆとりを感じるまち

○文化財保存・継承事業(新規)
369万円

平成30年が明治元年から数えて150年にあたるため、国が「明治の歩みをつなぐ、つたえる」事業を展開しています。本市では、明治維新への歩みを見守ってきた西国街道(苦の坂峠)を歩き、歴史を学ぶ山歩きイベントや、明治期以降の主要産業であった手すき和紙の体験教室を開催します。これに合わせて、街道沿いの看板の修繕や山道の保全も行います。



「希望」と銘打たれた小方学園に立つ銅像。その名のとおり大竹市の希望となる事業でありたいものです。

予算書を販売しています。



苦の坂を越えて旅人が往来した西国街道。歴史を体感するイベントを予定しています。



6 行政・社会の仕組みづくり

○大竹会館改修事業(新規)
8,000万円

社会教育施設等の再編基本方針をベースに大竹会館の方向性を検討した結果、新館、旧館を解体し建て替えます。必要な機能を効率よく配置できるよう設計業務を行います。平成31年度から32年度にかけて改修工事を行う予定です。



予算書(A4版334ページ)は、1,000円(税込み)で、市企画財政課、各支所で販売しています。当初予算の概要は無料で配布します。

なお、市立図書館や情報公開コーナー(市役所2階)、市ホームページでもご覧いただけます。

問い合わせ

企画財政課 ☎ 2121